

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	肺腫瘍に対するサイバーナイフ治療の有効性と安全性の検討
研究責任者	呼吸器内科 生島壮一郎
研究機関名	日本赤十字社医療センター呼吸器内科、サイバーナイフ科、化学療法科
研究目的と意義	<p>2011年5月より、当センターのサイバーナイフがバージョンアップし、頭蓋内病変だけでなく、肺を含めた体幹部に対する照射も可能となりました。</p> <p>肺に対するサイバーナイフは、早期の肺癌や転移性肺癌のうち、心臓、肺、肝臓、腎臓の機能低下や高齢であることなど、様々な理由で手術適応とならない患者さんに対して行うことができる放射線治療の一つです。</p> <p>サイバーナイフは従来の放射線治療と比較し、より高い効果が期待されています。本邦ではJCOG0403という第2相臨床試験が行われており、手術可能な原発性肺癌（T1N0M0）の64例を対象とし、定位放射線療法（サイバーナイフ治療と同様の放射線治療）後の3年局所制御率86%、3年生存率76%、と非常に良好な成績を収めました。サイバーナイフの有効性、安全性については主にアメリカ合衆国、イタリア、フランスから報告がなされていますが、本邦からは上記臨床試験以降の報告はなされていません。</p> <p>そこで今回我々は、本邦における肺腫瘍に対するサイバーナイフ治療の有効性と安全性を検討することを目的として、本研究を計画しました。</p>
研究方法	<p>●対象となる患者さん：</p> <p>2011年5月1日から2016年9月末日までの期間に、当センターにて肺腫瘍に対しサイバーナイフ治療を施行した患者さん。原発性肺癌と転移性肺腫瘍が対象疾患となります。</p> <p>・除外基準</p> <p>患者さん、またはご家族が当研究への参加を拒否された場合。</p> <p>●研究に使用する試料：</p> <p>(1) 診療録 (2) 胸部単純写真、CT、PETなどの画像 (3) 肺病理標本</p> <p>●研究方法</p> <p>診療録から必要な情報を集め、これまでに撮影した画像、肺病理標本を集積し、データベースを構築します。</p> <p>この方法は後ろ向き観察研究という方法で、新たに患者さんへ負担はかかりません。匿名化とって個人名を消去し、代わりに番号などを付与して処理を行うことで、誰のデータか分からないようにして、統計解析を行います。その結果は、呼吸器病に関する学会や医学雑誌に公表されることがあります。</p> <p>研究に組み入れられることを希望されない方は、担当医や下記の問い合わせ先にお知らせください。その場合、データ収集や統計解析は致しません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター呼吸器内科</p> <p>〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22</p> <p>担当者：栗野暢康、生島壮一郎</p> <p>TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>